

ふれあい情報誌

2021  
33号  
2021.2発行

# みなみの

Hospital Medicine Magazine Minamino



## 「口から食べる」ことへのこだわり 口腔ケアと「食べる」リハビリ



医療法人仁寿会  
南野病院



基本理念

患者様に安全と安心と満足を提供します。

患者様の権利

● 選べる権利 ● 知る権利 ● 参加する権利 ● 自ら決める権利 ● プライバシーに関する権利

# 「口から食べる」ことへのこだわり

食べることは、生命維持に必要なだけでなく、好きな物、美味しいものを食べた時の幸福感、家族や友人などとの交流の機会、まさに「人間が人間として生きる」うえで、欠かすことの出来ないものです。

当院には、様々な原因で食べるのが難しくなった患者様が入院して来られます。そのような方々が、口から食べれるようになることで、生活の質が向上し、身体機能の改善が見られる場合もあります。当院では食べるのが難しい患者様に、「人間の尊厳を守り、より幸せに生活していただく」ことを目標に、早くから摂食機能療法と口腔ケアに力を入れてきました。

今号では、「口から食べる」ことに向けて当院で行っている様々な取り組みをご紹介します。

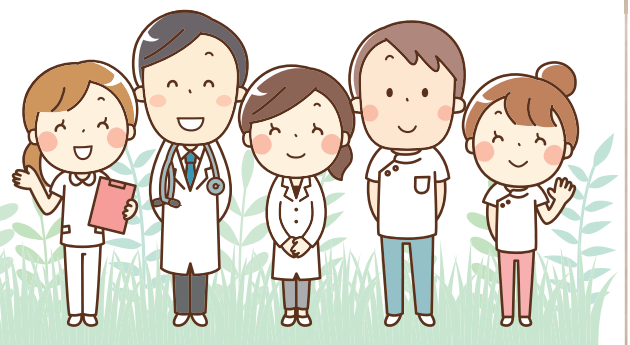
## 「食べる」ために ～多職種で連携～

当院は入院初日から、一人一人の患者様に合った診療を行うため、口腔内の状態や嚥下機能の評価を行います。この情報を多職種で共有し、「口から食べる」ためにどのようなケアや食事を提供したら良いかを検討します。その後、食事や口腔ケア、摂食機能療法（食べるリハビリ）に活かしています。

また入院中も、日々の患者様の状態に応じたケアや食事をタイムリーに提供できるような連携体制を整えています。



それぞれの  
専門性を生かし  
力をあわせます!!



## 「食べる」ための第一歩 ～口腔ケア～

当院は平成20年、厚生労働省医科歯科連携ネットワーク事業に参加し、先進的な試みとして歯科衛生士を配置、病院全体で口腔ケアに積極的に取り組んできました。

歯科衛生士は、口腔内の乾燥、歯茎の状態、入れ歯、歯磨きの状況、歯ブラシ他口腔ケア用品の確認、仕上げ磨き必要、開口困難な方のケア方法等、一人一人の口腔内状況と必要なケアが把握できるよう評価内容を記載し、多職種と共有します。

この情報をもとに、看護師、介護士が口腔ケア（口腔内の清潔維持・向上）を行います。

口腔ケアの良否は、以降の摂食機能療法（食べるリハビリ）を進めるための大切なキーポイントとなります。

また、患者様に歯科診療が必要な場合、大村地域歯科医療連携室と、入院中の訪問歯科診療や退院後の連携も行っています。



### 大村地域歯科医療連携室から

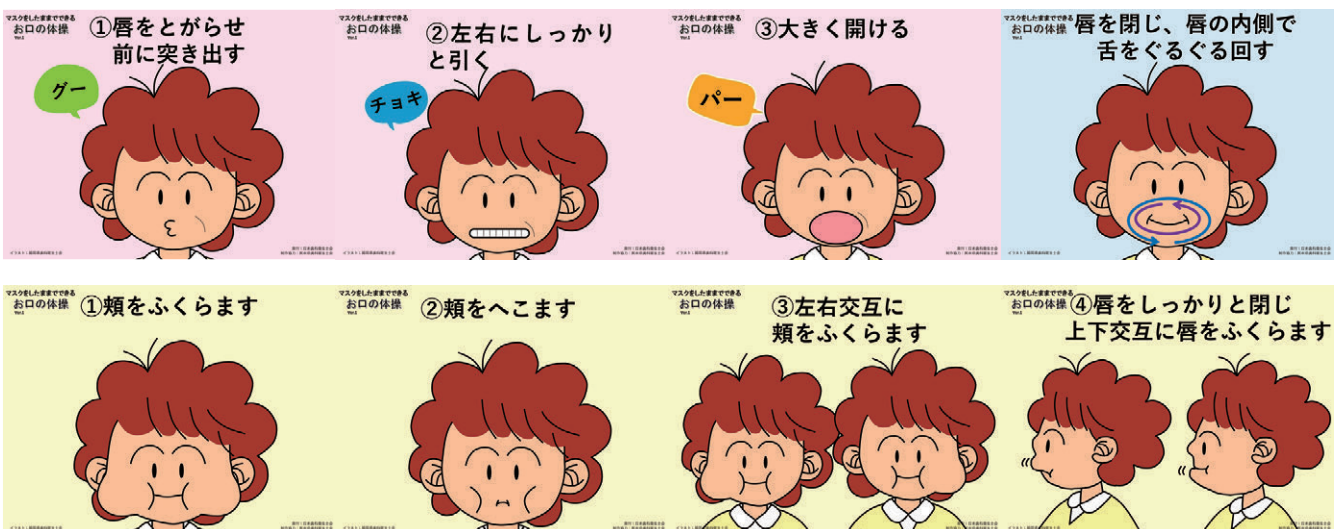
大村地域歯科医療連携室 室長 村上信成

南野病院では、入院患者様に対して充実した口腔ケアが行われていますが、義歯治療など歯科医師の診療を要することがあります。また退院後の口腔ケア、歯科治療について歯科医師との打ち合わせが必要な場合があります。引き続き大村地域歯科医療連携室を仲立ちとして患者様の健康管理のために協同していきたいと考えています。

マスクをしたままでできる

### 「お口の体操」のご紹介

発行:日本歯科衛生士会



## 「食べる」リハビリ ～摂食機能療法～

当院は平成20年から、摂食機能療法（食べるリハビリ）の充実のため、言語聴覚士部門を拡充してきました。現在は9名の言語聴覚士が在籍し、「食べる」リハビリを積極的に進めています。

言語聴覚士は、患者様の摂食・嚥下機能を多角的に検査し、評価します。  
この情報は医師や看護師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士等と共有します。  
そして、診療や言語聴覚士、看護師による「食べる」リハビリに活用しています。

### 摂食機能療法の流れ

#### 摂食・嚥下機能の検査

- ・飲み込みの状態を画像で確認（嚥下内視鏡検査・嚥下造影検査）
- ・食べるための能力の指標を測定（舌圧測定検査）

#### 摂食・嚥下機能の評価

- ・医師をはじめ関係職種と連携して、「食べる」ために何が必要か嚥下障害アセスメント（MASA）を活用し、客観的に評価



嚥下造影検査の様子

#### 摂食機能療法（食べるリハビリ）

- ・「食べる」リハビリは、口や舌を動かす間接的な訓練だけではなく、直接食べる訓練を積極的に取り入れています。
- ・一人一人の患者様に合った、安全で最適な「食べる」リハビリを提供するため、管理栄養士と連携し、食事の形態やとろみ付けなど細かい調整を行っています。



患者様のレベルに合わせた食事の形態（一例）

## 「食べること」から始まる ～病棟での事例～

### ▶ □から食べて回復

#### 【回復期リハビリテーション病棟】

回復期リハビリテーション病棟は、脳血管疾患、大腿骨頸部骨折などの患者様が、身体機能・基本動作能力・日常生活動作能力の向上と家庭復帰を目的とした集中的なリハビリテーションを受ける事ができる病棟です。

ある患者様は脳出血後遺症による嚥下障害があり、入院当初は鼻からチューブで栄養を入れている状態でした。入院初日よりリハビリと嚥下訓練を開始、患者様は日中もほとんど目を閉じて過ごされていましたが、11日目には意識がはっきりとしてこられ、16日目には言葉が出るまで回復しました。また37日目には昼食だけ訓練食を開始。60日目には3食□から食事が摂れるようになりました。意識の状態や日常生活動作も改善され、ご家族様もご本人様も大変喜ばれました。

日々の暮らしで、食べる行為は自然かつ当たり前の事ですが、視覚や嗅覚の刺激を受け食べる順序を選択、形態を把握するなどの動作が入り、脳を使います。さらに□を使うことで知覚や感覚機能にも刺激を与えます。身体機能の改善を図るためにも、□から食べる事がとても重要です。そのために回復期リハビリテーション病棟では、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、栄養士、薬剤師等さまざまな職種が協力、連携して支援しています。

### ▶ あきらめないでとりくむ

#### 【療養病棟】

当院の療養病棟は医療の必要性が高く、また日常生活の動作においてもほぼ全面介助が必要な患者様がほとんどです(※)。多くの患者様にお食事の介助が必要なため、スタッフの勤務時間を調整し、温かいお食事を食べていただけるように工夫しています。また、経管栄養の患者様にも、口腔内のケアや嚥下訓練を積極的に実施しています。

ある95歳の患者様は慢性心不全で嚥下障害もあり、経管栄養の状態です。流動食を入れるために鼻から胃へ挿入した管を、ご自分で抜いてしまうことが多々ありました。ご家族と話し合い、本人が嫌がることはやめ、可能な範囲で□から食事を摂っていただくことにしました。言語聴覚士が嚥下能力の評価を行い、評価結果や食事の介助方法(姿勢、嚥下の際の注意等)を病棟看護師と共有しました。朝夕は看護師、昼は言語聴覚士が介助し、お食事を摂っていただきながら嚥下訓練を続けました。最終的に、ご自分で全てのお食事を摂れるようになり、患者様の劇的な回復にご家族も大変驚かれ、喜ばれました。

歯科衛生士、言語聴覚士、栄養士、看護師がそれぞれの立場で患者様に関わり、このように経口摂取まで回復される方もいらっしゃいます。また、途中経過において少しでもよい状態になり、その方らしく過ごせる時間をお持ちいただける場合もあります。当病棟は多職種で連携し「□から食べること」を目指して協力し合える場所で、そのことも含めて患者様・ご家族様の想いに寄り添うことを大切にしています。

※令和2年度上半期 当院療養病棟のデータ：医療区分2・3(医療の必要性が高い状態)の患者割合 99.9%  
ADL区分3(日常生活動作ほぼ全面介助)の患者割合 79.1%

## 令和元年度「食べる」リハビリの実施状況

当院は、食べることに障害（嚥下障害）がある、または食べることが難しい（非経口摂取）患者様の入院率が全体の約5～6割と高く、その治療に力をいれてきました。現在これらの患者様ほぼ全てに言語聴覚士が介入し、「口から食べること」を目標に診療、ケアを行っています。

この結果、回復期リハ病棟では、多くの患者様が、口から食べられる状態へ回復しています。また、重症の患者様が多い療養病棟でも、回復期リハ病棟ほどではありませんが、口から食べられる状態へ回復しています。

	回復期	療養
各病棟患者への言語聴覚士介入率	53.5	64.8
嚥下障害患者の直接訓練実施率	99.0	54.4
嚥下障害患者の食事形態向上率	70.2	23.7
非経口患者の直接訓練開始率	100.0	46.7
非経口患者の3食経口摂取回復率	75.0	6.7

※表内の数値(%)は、  
死亡退院の場合を除いて算出しています。

### 回復期リハビリテーション 病棟における3食経口 摂取への回復率

▶ **75.0%**

当院は回復期リハ病棟でも重症の方への対応実績が多く、口から食べることを目標に、身体面・精神面の能力向上を目指します。

### 療養病棟における 直接訓練開始率

▶ **46.7%**

重症の患者様が多い療養病棟でも約半数の方が、部分的な経口摂取（直接訓練）ができるところまで回復されています。

他医で経口摂取が難しかった患者様に対し当院で「食べる」リハビリを続けた結果、3食経口摂取まで回復されることもあります。

**療養病棟における3食経口摂取回復率 2.8%**

※死亡退院も含む、病棟の全患者から算出した数値です。

## 退院後の生活をサポート

ご家族様による日常生活での介助方法や、退院先施設での詳しい看護・介助・リハビリについてなど、様々な情報を提供しています。また退院後訪問も積極的に実施しています。

今後も地域の患者様へ、更なるサポート体制の強化、拡充に努めてまいります。



医療法人仁寿会

**南野病院**

〒856-0826  
大村市東三城町33番地 TEL.0957-54-8800 (代) FAX.0957-54-8755  
療養病棟／回復期リハビリテーション病棟／緩和ケア病棟  
健診部 TEL.0957-54-5551 FAX.0957-54-8755  
通所リハビリテーション / 訪問リハビリテーション **ゆ〜かり**

有料老人ホームほほえみ TEL.0957-47-8601 FAX.0957-47-8632  
デイサービス ゆ〜かり TEL.0957-47-8606 FAX.0957-47-8607  
ヘルパーST オリーブ TEL.0957-47-8857 FAX.0957-47-8858  
居宅介護支援事業所 **コアラ** TEL.0957-53-3731 FAX.0957-53-3732  
みなみの保育園 TEL.0957-56-8812 FAX.0957-56-8821

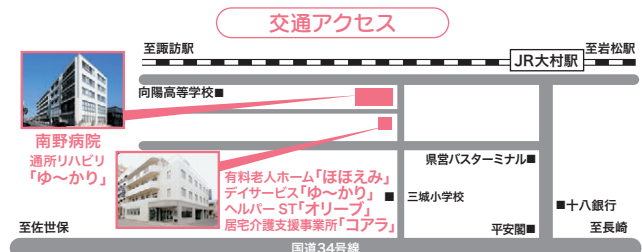
診療科目 ●内科 ●消化器科 ●放射線科 ●循環器科 ●リハビリテーション科  
受付時間 月曜～金曜8:30～12:00



南野病院

検索

ホームページ <https://www.minamino-hosp.jp/index.html>



■セブンイレブン ※第2Pは現在ありません。

■ローソン ■みなみの保育園 ■ミツワ美容院 ■ヘアメイクM2

■第3P 1～5 ■南野病院 ■第1P ■(株)平山組 ■第4P 16～30

■(有)北川商店 ■駅前公園 ■パチンコBANBAN ■第一生命

**駐車場のご案内**

**交通のご案内**

- 県営バスターミナルより 徒歩2分
- 大村駅から徒歩3分